

大豆の生産・販売状況について



1. 28年産の生産状況について（全農集計）

（1）全国

- ☺ 作付面積は122,000haと、前年産に比べて6,100ha増加しました。（前年比105%）
- ☹ 集荷数量は179,600トンと、前年産に比べて4,000トン減少しました。（前年比97%）

全国的に開花期以降の天候不順の影響から、小粒化傾向や歩留まりの低下が見られ、不作となりました。特に北海道および九州地区での影響が大きく、北陸の一部地区においても収穫期の降雨の影響を受けました。

（2）本県

- ☺ 作付面積は4,526haと、ほぼ前年並み（▲29ha）となっています。（前年比99%）
- ☹ 集荷数量は、一部地域で収穫時期における降雨の影響を受けたものの、一般的に作柄が良好だったことから、ほぼ前年産並みの8,749トンとなりました。（前年比100%）

【表1. 平成28年産大豆の作付・生産状況】

区分	平成28年産（A）		平成27年産（B）		対比差（A－B）	
	面積	集荷量	面積	集荷量	面積	集荷量
全国	122,000ha	179,600t	115,900ha	183,600t	+6,100ha	▲4,000t
新潟	4,526ha	8,749t	4,555ha	8,747t	▲29ha	+2t

※ 全農集計値

（3）品質概況

- ☹ 本県の品質について、1・2等比率は13.5%（前年対比▲6.1%）と、依然として全国平均を大幅に下回っており、品質向上が喫緊の課題となっています。
- ☹ 品質低下の要因は、「形質」「しわ粒」によるものが大半となっています。

【表2. 検査結果（等級比率）】

区分	年産	検査数量	普通大豆				特定加工	規格外	種子大豆合格
			1等	2等	(1・2等計)	3等			
全国	28年産	216,473t	27.2%	30.9%	(58.2%)	26.6%	13.3%	1.1%	0.9%
新潟	28年産	9,546t	2.3%	11.2%	(13.5%)	38.0%	47.2%	0.8%	0.5%
	27年産実績	9,503t	5.1%	14.5%	(19.6%)	57.3%	22.7%	0.4%	0.0%

- ※ 農水省公表値（3月31日現在）より。
- ※ ラウンドの関係で合計値が合わない場合がある。

2. 28年産の販売状況について

(1) 需給環境

- ☺ 28年度¹の供給量は24万4千トンと、前年繰越の影響で、前年度に比べて1万トン増加しています。年間使用量を18万トン（農水省需要調査等を参考）と想定した場合、次年度繰越は6万4千トンとなり、需給はやや緩和傾向となる見通しとなっています。

【表3. 需給イメージ（全農推定）】

（単位：千t、円/俵）

区分/年度（11月～10月）		28	27	26	25	24	23
1	集荷数量	180	184	177	151	181	167
2	前年繰越	64	50	43	62	64	81
3	供給量（1+2）	244	234	220	213	245	248
4	使用量	180	170	170	170	183	184
5	次年度繰越（3-4）	64	64	50	43	62	64
6	年間需要に締める繰越比率	36%	38%	29%	25%	34%	35%
7	新潟県産平均販売単価	8,534	8,615	12,018	9,000	7,178	6,743

※ 28年産の平均販売単価は4月末時点の実績となっています。

(2) 入札取引（5月19日現在）

- ☺ 28年産入札取引は12月14日から開始され、これまでに6回実施されています。
- ☺ 落札価格は、需給がやや緩和傾向にあることから、全国、本県とも前年を下回る水準となっています。
- ☺ 本年より、29年産播種前入札取引が試験導入されましたが、28年産で不作だった東海・九州以外の地域は低調な取引結果となりました。

【表4. 28年産収穫後入札取引結果（5月19日現在）】

（単位：60kgあたり税抜価格）

		上場数量	落札数量	落札率	落札平均価格
全 国	28年産	45,666 t	22,222 t	49%	9,431 円
	27年産	45,100 t	36,485 t	81%	10,304 円
	前年差	+566 t	▲14,263 t	▲32%	▲873 円
新 潟	28年産	2,584 t	822 t	32%	8,542 円
	27年産	2,109 t	1,970 t	93%	9,255 円
	前年差	+475 t	▲1,148 t	▲61%	▲713 円

【表5. 29年産播種前入札取引結果（4月）】

		上場数量	落札数量	落札率	落札平均価格
全 国		12,157 t	4,485 t	37%	9,319 円
新 潟		634 t	109 t	17%	8,200 円

3. 29年産の生産に向けて

本県産大豆は実需者から一定の評価を受けており、安定供給を強く求められています。

28年産は、27年産に引き続き安定供給を実現することができ、実需者が継続的に新潟県産大豆を使用できる環境となりました。29年産も引き続き品質および単収の向上に努め、県産需要の維持・拡大をはかりましょう。

4. 「里のほほえみ」について

- ☺ 品質・収量の向上をはかり安定した大豆作経営を実現するため、優良品種「里のほほえみ」の切り替えを、県と連携しながらすすめています。
- ☺ 「里のほほえみ」は、成熟期が「エンレイ」より9日程度遅い晩生品種です。大粒でしわ粒の発生が少なく、倒伏抵抗性が強く最下着莢位置が高いため機械収穫に適しており、「エンレイ」に比べ収量・品質の向上が期待できます。
- ☺ 使用実績のある実需者からは、品質や加工適正について一定の評価をいただいています。
- ☺ 29年は種用種子（28年産）から県内種子場で種子生産を開始しており、30年産から本格生産に取り組みます。
- ☺ 実証試験結果や実需者の評価等について、速やかに情報提供をおこなうとともに、適宜説明会等を開催していきます。

【表6. 大豆生産計画】

単位：ha

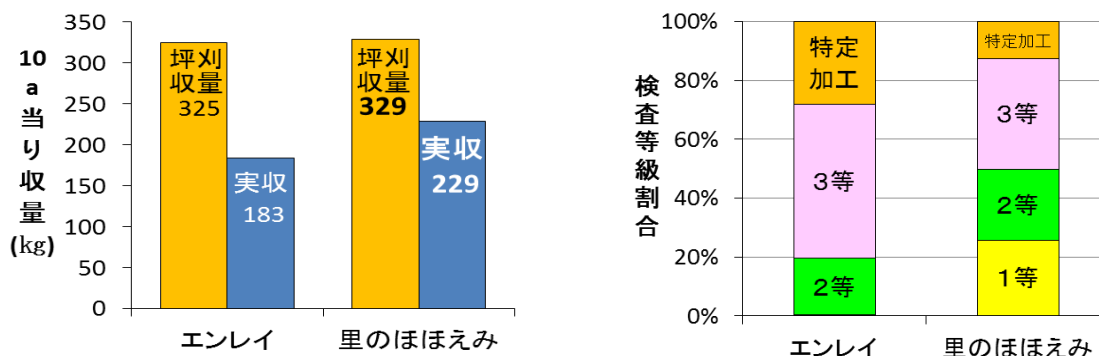
	28年産	29年産	30年産
里のほほえみ	373	770	2,692
エンレイ	3,892	3,624	1,629
その他	210	162	22
合計	4,475	4,556	4,343

※28年産：委託販売申込実績

※29年産：生産動向調査結果

※30年産：種子予約実績から試算（エンレイ・その他：播種量4kg/10a、里のほほえみ：播種量5kg/10aで算出）

【図1. 平成28年度大豆「里のほほえみ」現地実証試験結果（概要）】



坪刈収量では「里のほほえみ」は「エンレイ」並みだが、「里のほほえみ」は「エンレイ」より1~2等比率が高い。収穫ロス等が少なく、実収量は高い。

※ 新潟県：「里のほほえみ」現地実証試験結果 平成27-28年平均より

(米穀部 総合対策課)